

未来の山村づくり

2020

事例集

北海道編

令和元年度3月
林野庁若手プロジェクト
未来の山村づくり

本事例集について

○概要

私たちは『未来の山村づくり』をテーマに森林・林業に携わる方にヒアリングを行いました。本事例集はそのヒアリングをもとに作成したものです。

田舎暮らしに関心がある方、地域おこしの実務をされている方、市町村職員の方に向けて、森林・林業がより身近な「未来の山村をつくる」ためのヒントを読みやすい語り口でまとめてみました。

○目次

事例 1	鶴居村における林道ツアー	2
事例 2	ニセコ町における自伐型林業	4
まとめ	未来の山村づくり	6

鶴居村における林道ツアー

(北海道鶴居村)

鶴居村役場が中心となり森林組合などの担当者と協力して、村民の森フットパスツアーや林業現場体験ツアーなどを企画。村内、村外から住民が参加して「木について分かりやすく説明を聞くことができ、森にとっても興味を持つことができた。今後は、自分でも林道に行きたい。」などの感想が聞けた。

担当者の活動への思い

鶴居村に移住し、林務担当者として初めて見た林道の景色の素晴らしさに感動した一方で、村民をはじめ多くの方は森林との関わりが少ないと思った。そのため、林道を活かしたツアーなどを開催することによって、多くの人に森林の多面的機能や林業について知ってもらい、森をもっと身近に感じてもらいたいと思い企画した。特に、森林整備関係予算には多くの税金が投じられていることから、こうした取り組みを通じて、森の持つ公益的機能を知ってもらうことは重要だと思った。

他地域へのアドバイス

ガイドを確保し、安全面に配慮することが重要。山林内は、ヒグマとの遭遇も想定されることから、野生鳥獣に対する理解が求められるほか、草刈りなどのコースの事前準備も必要となる。

鶴居村における林道ツアー

(北海道鶴居村)



林業体験ツアーの参加者と重機



林道ツアーの参加者と美しいカラマツ林

ニセコ町における自伐型林業

(北海道ニセコ町)

合同会社Hikobayuの代表の澤田さんは作業道の作設や劣勢木の利用間伐等を行っている傍ら、自伐型林業推進協会の事務局も兼任し自伐型林業の普及啓発にも取り組んでいる。また、地域材の活用として薪や精油の加工・販売も行っている。

担当者の活動への思い

ニセコ町へ移住し地域おこし協力隊として活躍した後、森林管理と森林資源活用分野で貢献したいとの思いから、合同会社Hikobayuを立ち上げた。切り株から芽がでる様の『ひこばえ』という言葉から、自然と共生する新しい時代へのチャレンジ精神が込められて命名。

未来の山村は直接、住民や山村自治体により多くのメリットがある林業と出口戦略にシフトし、山村での暮らしを魅力的と言える状況を作るべきである。自伐型林業はこれからの日本の主要な森林管理手法、森林資源活用の一つとして位置付けられるようになるべきである。

他地域へのアドバイス

事故が起こるとたくさんの人に迷惑がかかると考え、安全には徹底して行ってほしい。地域の森林を長い視点で育て経営するスタイルであるため、自治体や地元企業、山主等と連携し、地域の活力や災害予防治山効果のある森林を増やす「地域のスター」になってほしい。

ニセコ町における自伐型林業

(北海道ニセコ町)



作業道を作設している様子



トドマツ枝葉から蒸留して作られた精油

未来の山村づくり

北海道でのこれらの事例は森林資源を活かして地域を活性化する取組のほんの一部ですが、未来の山村づくりを目指すにあたって大変貴重な情報です。

私たちは森林・林業がより身近な山村をつくっていくために『4つのヒント』を得ることができました。

今後、多くの取組が出てくることをプロジェクトメンバー一同期待しています。

4 つのヒント

地域資源を見つけよう

安全に気をつけよう

準備をしっかりしよう

地域のスターになろう